

ケーススタディ調査編

1. ケーススタディの概要

(1) 目的

本編で理論構築しているスポーツコミッションのあり方を、具体的に検証することを目的として、ケーススタディを行なった。

このケーススタディは青梅市において実施した。青梅マラソン大会などのスポーツイベントへの取組、多摩川水系・御岳溪谷など自然環境を活かしたスポーツ活動が盛んな地域であることが選定の理由である。

(2) 構成

図表C-1 ケーススタディ調査編の構成

1. ケーススタディの概要	(1) 目的 (2) 構成
2. 青梅市のスポーツ等の状況	(1) 市民のスポーツ実施状況 (2) スポーツ施設環境 (3) 主なスポーツイベント (4) その他のスポーツ資源 (5) ホスタウン登録
3. 関係団体等ヒアリング調査	(1) 主なスポーツ関係団体 (2) まちづくり等関係団体 (3) 関係団体等ヒアリング調査のまとめ
4. 住民等アンケート調査	(1) 意向調査の概要 (2) 集計結果 (3) 住民等アンケート調査のまとめ
5. 青梅市におけるスポーツコミッションのイメージ	(1) 求められる効果(課題) (2) 求める効果から見たスポーツ活用タイプに対する必要性 (3) 条件から見たスポーツ活用タイプ選択の可能性の検討 (4) 必要性から見たスポーツ活用タイプの選択 (5) スポーツ活用タイプに対応したスポーツコミッションの機能 (6) スポーツコミッションの組織形態 (7) 参画組織、連携組織のイメージ

※ケーススタディ調査編の構成は、本編の「4-1. 自治体別スポーツコミッションのあり方検討の流れ」(P62~63)に沿って、検討したものである。

2. 青梅市のスポーツ等の状況

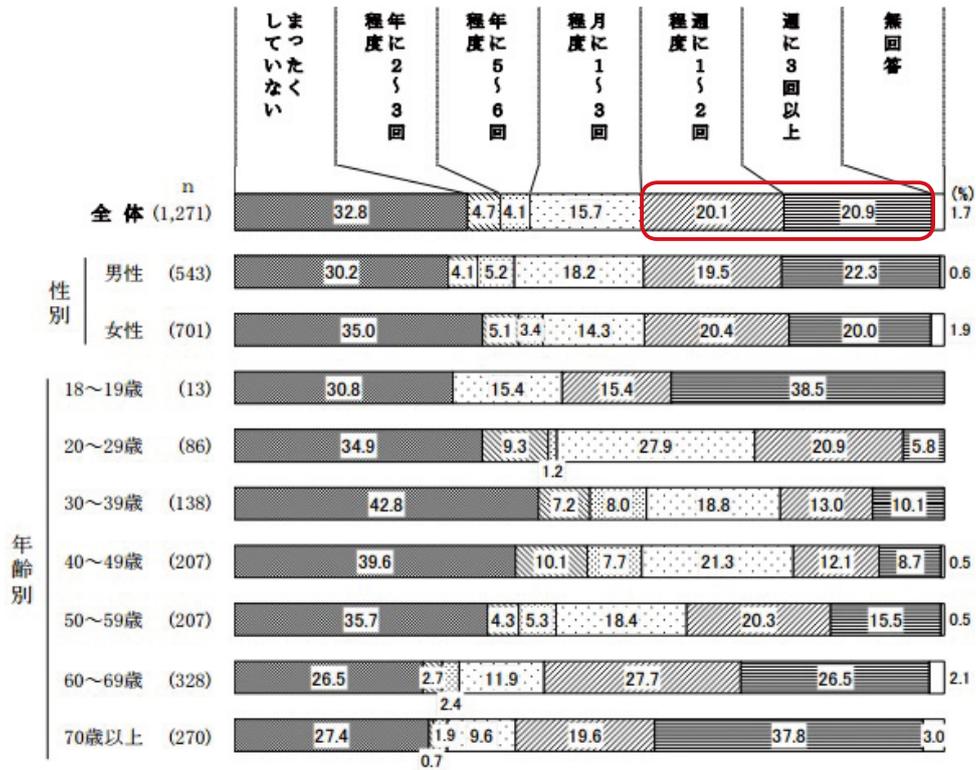
(1) 市民のスポーツ実施状況

青梅市の政総合世論調査（平成28年）では、市民が1年間に行なう運動やスポーツの頻度は、「まったくしていない」が32.8%と最も多く、続けて「週に3回以上」が20.9%、「週に1～2回程度」が20.1%、「月に1～3回程度」が15.7%となっている。

特に30代、40代に「まったくしていない」とする回答が多い。18～19歳や60歳以上では、半数以上の方が週1回以上運動やスポーツをしており、働き盛りの30代、40代の運動不足がみられる。また、男性よりも女性の方が運動やスポーツをしない傾向もややみられる。

青梅市では週に1回以上運動・スポーツをしているという回答が約4割となっているが、東京都が実施した都民を対象とした調査（ただし平成27年実施「都民のスポーツ活動に関する世論調査」では、設問方法が異なるため、単純比較はできない）では6割を超えており、比較的低い値となっている。

図表C—2 青梅市民の運動・スポーツ頻度



出典：「第29回市政総合世論調査報告書（平成28年東京都青梅市）」

(2) スポーツ施設環境

青梅市内の主要なスポーツ施設を整理したものが下表である。陸上競技施設は公認記録のとれる施設が市内にないため、公認の記録会は市外の施設を利用する形がとられている。

図表C-3 青梅市内のスポーツ施設

施設名・種別		構造規模	主な使用可能種目	写真(出典：青梅市HP)
永山公園総合運動場	陸上競技場	シンダー トラック：300m 直線走路：132.8m コース幅：1.25m 夜間照明有	サッカー ソフトボール	
	野球場	クレー 軟式用1面使用可能 夜間照明有	野球	
	庭球場	全天候型(3面) ハード：2面 砂入人工芝：1面 夜間照明有	テニス	
	体育館	鉄筋2階建 男女更衣室、シャワー室 便所	卓球 ダンス 他	
	弓道場	木造平屋建 6人立	弓道	
	管理事務所	鉄骨2階建	—	
市民球技場	野球場	クレー(2面) 軟式用	野球 ソフトボール	
	庭球場	砂入人工芝(10面) ※H24.4改修	テニス	
	少年野球場	クレー(1面) 軟式用	ソフトボール	
	サッカー場	クレー(1面)	サッカー	
	管理棟	鉄骨2階建 事務室、器具庫、倉庫 更衣室(シャワー室)	—	
わかぐさ公園野球場	野球場	クレー(1面) スタンドベンチ：3基 夜間照明有	少年野球 (硬式、軟式)	

施設名・種別		構造規模	主な使用可能 種目	写真(出典：青梅市HP)
ちがむら球技場	野球場	クレー(1面) ダッグアウト：2箇所 夜間照明有	野球 ソフトボール	
	庭球場	クレー(2面)	テニス	
	管理棟	プレハブ 事務室、倉庫 更衣室(シャワー室)	—	
東原公園球技場	球技場	夜間照明有	ソフトボール サッカー等 (軟式、硬式野球は除く)	
友田レクリエーション広場	ソフトボール場	クレー(1面)	ソフトボール 少年野球	
	庭球場	クレー(3面)	テニス	
	ゲートボール場	クレー(1面)	ゲートボール	
	管理棟	鉄筋コンクリート造2階建 事務室、ロッカー シャワー室、男女便所 倉庫	—	
青梅スタジアム	野球場	クレー(1面)	硬球野球 軟式野球	
	庭球場	クレー(3面)	テニス	
	管理棟	軽量鉄骨造2階建 管理室、更衣室(男女) トイレ(男女・身障)、倉庫	—	
風の子・太陽の子広場	冒険の広場	—	—	—
	キャンプ場	テント(10張用)	—	
	秘密の広場	—	—	
	芝生広場	—	—	
	野外ステージ	—	—	
	ドロンコ広場	—	—	
	中央広場	—	—	
	ランニングコース	—	—	
	便所	木造平屋建	—	
	管理棟(集会施設)	鉄筋コンクリート2階建	—	

施設名・種別		構造規模	主な使用可能 種目	写真(出典：青梅市HP)
東原公園 水泳場	水泳場	25m プール(P.C造) 7コース：25m×15m 深さ：1.00m～1.20m 流水プール(鋼板造) 周囲：176.8m 幅：5m～7m 深さ：1.1m スライダープール 幅：11m×4m、7m×3m 幼児用プール(鋼板造) 幅：23m×17m 深さ：0.10m～0.50m	—	—
	スライダー	直線スライダー(R.C造) 滑り面：3レーン 長さ：20m 高さ：6m 曲線スライダー(R.C造) 滑り面：FRP製1レーン 長さ：63.5m 高さ：6.96m	—	—
	管理棟	鉄筋コンクリート平屋造 管理室、ロッカー室、 更衣室(男女) 機械室、監視員室、倉庫、 放送室、救護室	—	—
わかぐさ公園 こども プール	水泳場	流水プール(ステンレス造) 周囲：100m 幅：5m 深さ：0.6m 幼児用プール 直径：6m 深さ：0.1～0.3m	水泳	—
	管理棟	鉄筋コンクリート造平屋建 事務室、待合室、更衣 室(男女) 機械室、監 視員室、医務室、放送 室 倉庫	—	—
沢井市 民セン ター プール	水泳場 (管理棟含 む)	鉄筋コンクリート造3階建 2階：更衣室(男女)、 トイレ(男女) 3階：25mプール(ス テンレス造) 6コース：25m×11.8m 水深：0.80m～1.10m 監視室、シャワー室、 倉庫	水泳	—

施設名・種別	構造規模	主な使用可能 種目	写真(出典：青梅市HP)
総合体育館	鉄筋コンクリート造1階建(一部中2階) 延床面積 6,842.06㎡ 敷地面積 12,405.56㎡	—	
	第1スポーツホール バレーボール 4面 バドミントン 12面 バスケットボール 2面 テニス 3面	—	
	第2スポーツホール 柔道 196畳 空手 1面 剣道 1面 フォークダンス 1面	—	
	トレーニング グループム ウエイトトレーニングマ シン、フィットネスバイ ク その他	—	
	その他 会議室(5)、応接室、事務室 観客席(378)、エントラ ンスホール その他	—	

出典：青梅市提供資料

(3) 主なスポーツイベント

① 青梅マラソン大会

「マラソンの普及と強化」を目的に、誰でも参加できる大衆マラソンとして、“円谷選手と走ろう”を合言葉に1967年3月に始まり、平成28年度で51回を数える全国からランナーの集まる市民マラソンである。

コースは30kmとフルマラソンではないものの、過去には瀬古利彦氏、高橋尚子氏、野口みずき氏らも参加している。

沿道では、沿道の商店や自治会など市民が、参加者を応援するとともに飲み物などを提供している。ゴール付近では、参加者を労うとともに、市民のお祭りとしてグルメフェスティバルなども開催されている。

<大会の概要>

開催日：毎年2月第3日曜日

コース	30km[青梅マラソン日本陸連公認コース] 東青梅4丁目→川井(折り返し)→青梅市総合体育館前 10km[青梅マラソン日本陸連公認コース] 東青梅4丁目→日向和田(折り返し)→青梅市役所前																														
スタート	30km…11時30分 10km…9時30分																														
競技終了時間	30km…15時30分 10km…10時50分																														
定員	1万9000人 30km…1万5000人 10km…4000人																														
種目	<table border="0"> <tbody> <tr> <td>30キロの部</td> <td>男女共に高校生以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>男子40歳未満</td> <td>女子40歳未満</td> </tr> <tr> <td></td> <td>男子40歳代</td> <td>女子40歳代</td> </tr> <tr> <td></td> <td>男子50歳代</td> <td>女子50歳代</td> </tr> <tr> <td></td> <td>男子60歳以上</td> <td>女子60歳以上</td> </tr> <tr> <td>10キロの部</td> <td>男子高校生</td> <td>女子高校生</td> </tr> <tr> <td></td> <td>男子40歳代</td> <td>女子40歳未満</td> </tr> <tr> <td></td> <td>男子50歳代</td> <td>女子40歳代</td> </tr> <tr> <td></td> <td>男子60歳代</td> <td>女子50歳代</td> </tr> <tr> <td></td> <td>男子70歳以上</td> <td>女子60歳以上</td> </tr> </tbody> </table>	30キロの部	男女共に高校生以上			男子40歳未満	女子40歳未満		男子40歳代	女子40歳代		男子50歳代	女子50歳代		男子60歳以上	女子60歳以上	10キロの部	男子高校生	女子高校生		男子40歳代	女子40歳未満		男子50歳代	女子40歳代		男子60歳代	女子50歳代		男子70歳以上	女子60歳以上
30キロの部	男女共に高校生以上																														
	男子40歳未満	女子40歳未満																													
	男子40歳代	女子40歳代																													
	男子50歳代	女子50歳代																													
	男子60歳以上	女子60歳以上																													
10キロの部	男子高校生	女子高校生																													
	男子40歳代	女子40歳未満																													
	男子50歳代	女子40歳代																													
	男子60歳代	女子50歳代																													
	男子70歳以上	女子60歳以上																													

出典：青梅マラソン大会事務局 HP

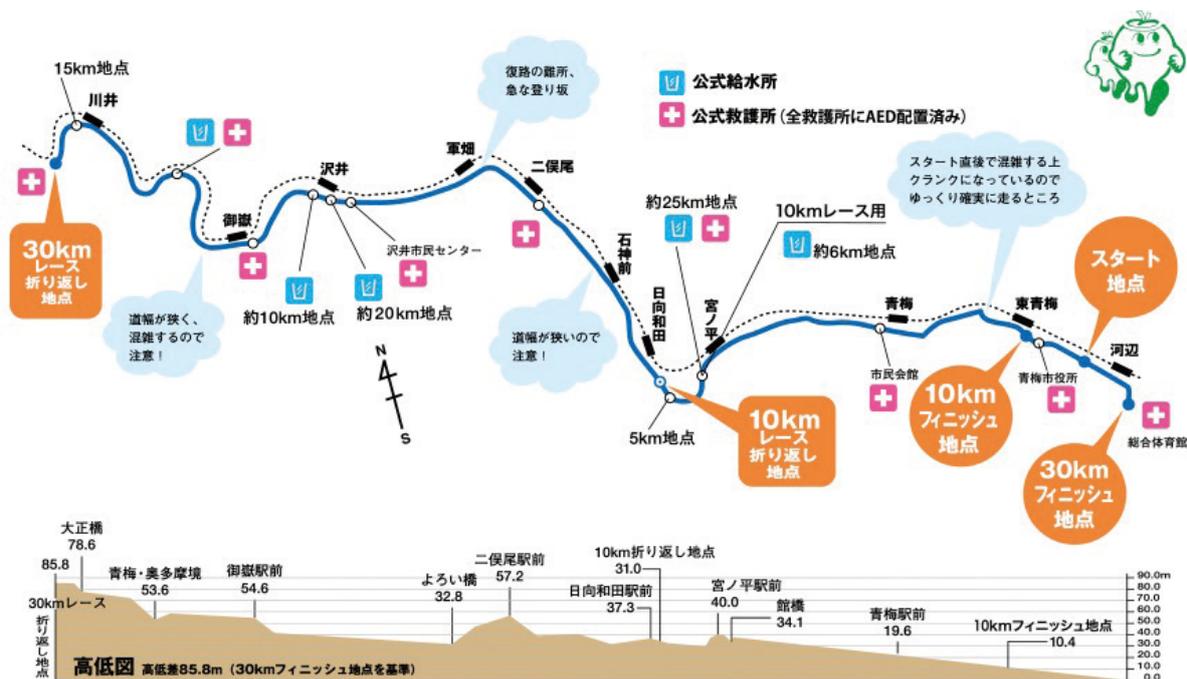
<運営・後援等>

主催：青梅市／報知新聞社／公益財団法人東京陸上競技協会／青梅市陸上競技協会／一般財団法人青梅マラソン財団

主管：青梅市陸上競技協会

後援：公益財団法人日本陸上競技連盟／青梅市教育委員会／一般社団法人青梅市体育協会／奥多摩町／読売新聞社／日本テレビ放送網

<コース>



出典：青梅マラソン大会事務局HP

②青梅市民体育大会

青梅市内の屋外体育施設と総合体育館を中心に市内各地で、水泳、バレーボールなど各体育協会が主体となり、28競技の大会が行われる。一部の競技を除き、市内在住・在勤・在学者が参加可能である。

<実施競技>

陸上競技：陸上競技

水泳：水泳

格闘技・武道：柔道、少林寺拳法、空手、剣道

射的：弓道、アーチェリー、ボウリング

球技：バレーボール、インディアカ、バスケットボール、ビーチボール、テニス（男子・女子シングルス）、テニス（男子・女子・壮年ダブルス）、テニス（ミックスダブルス）、ソフトテニス（一般の部）、ソフトテニス（中学生の部）、サッカー（壮年の部）、サッカー（小学生）、サッカー（中学生の部）、サッカー（フットサル）、卓球、バドミントン（一般・中学生）、バドミントン（小学生の部）、軟式野球、ソフトボール、少年軟式野球、ゲートボール、ゴルフ

アウトドアスポーツ：トレイルラン

ウォータースポーツ：カヌー

その他：障害者と家族のスポーツ大会

③みたけ山トレイルラン

冬季間の観光客の落ち込みに対する地元の商店街・観光事業者などの取組として始まったもので、年の瀬に御岳山を走るレース。平成28年度で17回目の開催である。

<事業概要>

スタート場所：滝本駅(ケーブルカー)

フィニッシュ場所：御嶽神社

コース：ケーブルカー滝本駅(御岳山麓)→大塚山→宿坊街→ロックガーデン→鍋割山(1084m)
→奥の院(1077m)→御嶽神社の15km

参加定員：1,200人

主催：みたけ山トレイルラン大会実行委員会

KFCトライアスロンクラブ／青梅市トライアスロン協会

後援：青梅市・TAMAライブ21・青梅市観光協会・佐藤スポーツ

※トレイルランは、これ以外にも、青梅高水山トレイルラン、TOKYO成木の森トレイルラン、TOKYO八峰マウンテントレイル(八王子市)、多摩川源流トレイルラン(山梨県小菅村)などがある。KFCトライアスロンクラブ、青梅市トライアスロン協会により、青梅市及び青梅市周辺で実施されている。



みたけ山トレイルラン
出典：KFCトライアスロン
クラブHP

④西多摩地域広域行政圏体育大会とスポーツフェスタ

西多摩地域では、8市町村(青梅市、福生市、羽村市、あきる野市、瑞穂町、日の出町、檜原村、奥多摩町)で構成される「西多摩地域広域行政圏協議会」を昭和58年に設立し、圏域市町村の連携・協調を図っている。こうした中で、広くスポーツ・レクリエーションを普及し、地域の活性化と住民の交流・親睦を図ることを目的に体育大会、スポーツフェスタが開催されている。

体育大会は各市町村の代表選手が各競技会場で熱戦を展開する。また、日ごろ触れる機会の少ないニュースポーツ・障がい者スポーツの体験イベント「スポーツフェスタ」も併せて開催している。

(4) その他のスポーツ資源

①スポーツ団体

現在、青梅市体育協会に加盟している団体は以下の30団体である。

<加盟団体>

青梅市陸上競技協会、青梅市軟式野球連盟、青梅市ソフトテニス連盟、青梅市卓球連盟、青梅市バレーボール連盟、青梅市柔道連盟、青梅市剣道連盟、青梅市バドミントン協会、青梅市水泳協会、青梅市スキー連盟、青梅市サッカー協会、青梅市空手道連盟、青梅市スケート連盟、青梅市弓道連盟、青梅市テニス協会、特定非営利法人青梅市カヌー協会、青梅市バスケットボール連盟、青梅市ソフトボール連盟、青梅市アーチェリー協会、青梅市ボウリング連盟、青梅市ゲートボール協会、青梅少林寺拳法連盟、青梅市インディアカ協会、青梅市ゴルフ協会、青梅市ビーチボール連盟、青梅市トライアスロン協会、青梅市少年軟式野球連盟、青梅市新体操連盟、青梅市サイクリング協会、青梅市健康太極拳協会

②自然環境

青梅市には、御岳山をはじめとした山々や市内を東西に流れる多摩川がある。ハイキングや釣り、カヌー、ラフティング、水遊びなど、自然環境に恵まれた地であり、スポーツ、レクリエーションを楽しむため首都圏から多くの人々が訪れる場所となっている。

<青梅丘陵ハイキングコース>

市内でもっとも親しまれているコースで、丘陵から街に降りる分岐点が多数あるので、体力に合わせたコース選びができる。

<霞丘陵ハイキングコース(岩蔵温泉側)>

霞丘陵自然公園(塩船観音寺)から岩蔵温泉郷まで丘陵の尾根道を散策できる、初心者でも歩きやすいコースである。

<霞丘陵自然公園>

塩船観音寺の北側に位置し、霞丘陵ハイキングコースの起点になっている。紫陽花やツツジが咲き、市内でも稀な松林を散策できる。

<ロックガーデン(岩石園)>

七代の滝から綾広の滝までの約1.5kmは、ロックガーデンと呼ばれ、天狗岩をはじめとして大小さまざまな奇岩がある。ケーブルカーの駅からも近く、初心者でも歩きやすいハイキングコースとなっている。

<釜の淵公園>

多摩川と一体となった桜や新緑が美しい公園で、JR青梅駅から徒歩15分と交通アクセスにも優れ、夏を中心に釣りや川遊びの人々で賑わっている。

青梅市カヌー協会のボートハウスもあり、カヌーなどの練習が行われている。

<日の出山>

標高902m。御岳山から見ると日の出の方向になるためこの名前がついたと言われている。頂上付近は展望に恵まれ、奥多摩、秩父の山並みや関東平野が見渡せる。御岳登山鉄道御岳山駅から1時間ほどで、尾根づたいに降りると、吉野梅郷へ行くことができる。

<御岳渓谷遊歩道>

JR御嶽駅を中心に、多摩川の両岸約4kmにわたり遊歩道が整備されている。この遊歩道を通じて御岳美術館、玉堂美術館、櫛かんざし美術館、小澤酒造をめぐることができる。

<御岳渓谷のカヌー>

1966年御岳渓谷で最初のカヌー大会、全日本選手権大会が実施された。その後、カヌー愛好者が次第に増加し、各種の大会が開催されるようになっていく。2013年に実施されたスポーツ祭東京では、カヌー競技会場として利用され、御岳交流センターが造られたことで、現在も艇庫・交流施設として利用されている。

御岳渓谷では、カヌー以外にもラフティング、釣り、外岩を登るボルダリング、河岸でのバーベキューなどが楽しまれている。



御岳渓谷のカヌー競技大会
出典：青梅市カヌー協会HP

③スポーツチーム

青梅FC：サッカー東京都1部リーグ。かつてはサッカー関東社会人リーグで2位になり全国地域リーグ決勝大会出場。

東芝青梅ラグビー部：かつてトップイーストリーグに所属したラグビーチーム。2012年に休部。

若草FC：東京都ジュニアサッカー大会ハトマークフェアプレーカップ、全日本サッカー大会に出場。

④青梅市出身のアスリート等

若杉遥 氏：ロンドン・リオと2つのパラリンピックにゴールボール競技女子日本代表メンバーとして出場。ロンドンでは金メダルを獲得。

竹下百合子 氏：カヌー女子スラロームで北京オリンピック出場。

藤野強 氏：カヌー男子スラロームでアトランタオリンピック出場。現NPO法人青梅市カヌー協会会長

⑤総合型地域スポーツクラブ

市内には総合型地域スポーツクラブが2団体あるものの、現在、どちらも活動を休止している状態にある。

(5)ホストタウン登録

①概要

青梅市は、国が推進する2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会参加国・地域との人的、経済的、文化的な相互交流を図る「ホストタウン」への登録を申請し、第二次登録47件の一つとして、ドイツ連邦共和国のホストタウンに登録された。

②取組

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、ドイツ連邦共和国を応援するとともに、姉妹都市であるボッパルト市を中心にスポーツ面、文化面などにおける交流を深めている。

また、国内でもトップレベルのカヌー競技の練習環境を有する御岳溪谷で、ドイツ連邦共和国のカヌースラロームチームのキャンプ誘致を積極的に働きかけている。

3. 関係団体等ヒアリング調査

青梅市のスポーツの特色を成している青梅マラソン大会に関連する、あるいは御岳溪谷・多摩川水系の自然を活用したスポーツ等に取り組む団体、及びまちづくり・地域の活性化に関わる団体等に、ヒアリング調査を実施した。(平成28年11月実施)

(1) 主なスポーツ関係団体

① 一般社団法人青梅市体育協会

組織の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・青梅市民のスポーツ振興を目的とした関係競技団体を束ねる組織 ・30団体が加盟 ・全加盟団体が青梅市体育協会の役員に就任
主な活動	<ul style="list-style-type: none"> ●市民体育大会 <ul style="list-style-type: none"> ・種目別に各加盟団体により実施されている。 ●青梅マラソンコースを歩く会(3月) <ul style="list-style-type: none"> ・青梅マラソン大会の知名度を活用し、スポーツツーリズムの推進を模索するため実施している。 ・37回の開催を迎え、毎年800人ほどの参加を得ている。参加者は市内外半々である。 ・37回目から梅の里再生祭りと連携し、「青梅マラソンコースと梅の里を歩く会」となっている。 ●その他事業 <ul style="list-style-type: none"> ・ジュニア育成地域推進事業、シニアスポーツ振興事業、一般社団法人青梅市体育協会親睦ゴルフ大会、講習会、加盟団体親睦スポーツ大会を行なっている。 ●広域的な連携 <ul style="list-style-type: none"> ・西多摩地域広域行政圏体育大会で実施している体育大会に、各加盟団体として実施参加協力している。
2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> ・現在特に取組はしていないが、今後取り組む可能性もある。
スポーツを活かしたまちづくり、地域活性化への今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> ●青梅市陸上競技協会及び加盟団体の自立とそのため活動、事業の模索 ●青梅の自然環境を活かしたスポーツツーリズムの推進 <ul style="list-style-type: none"> ・カヌー及びカヤック、ラフティング、トレイルラン、トレッキング、ボルダリング、サイクリング(ヒルクライム)、トライアスロンなどのスポーツを活用して青梅の環境を活かすスポーツツーリズムを推進したいと考えている。 ・地元自治会、宿坊、トライアスロン協会の連携による「みたけ山トレイルラン」など、既に地域の活性化に向けスポーツが活用されている。 ●スポーツコミッション等による連携の可能性 <ul style="list-style-type: none"> ・青梅マラソン大会における観光協会との連携強化などにつながる可能性があるものとして、スポーツコミッションの必要性は感じる。 ●首都圏の人口集積地から近接した立地特性の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・日帰り圏という良すぎる交通利便性を、スポーツ合宿、スポーツシュレなどとして活かす方向を市にも提案した経緯がある。

②青梅市陸上競技協会

組織の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・市内における陸上競技の発展のための活動を行なう組織 ・1936年11月3日設立、80年の歴史を持つ
主な活動	<ul style="list-style-type: none"> ●主なイベント <ul style="list-style-type: none"> 2月 青梅マラソン大会 8月 青梅市陸上競技選手権大会 (会場：あきる野市都立秋留台公園陸上競技場) 10月 青梅市民体育大会陸上競技 12月 奥多摩溪谷駅伝競走大会(昭和11年から78回開催) ●主な事業 <ul style="list-style-type: none"> ・ジュニア育成事業
青梅マラソン大会	<ul style="list-style-type: none"> ●開催のきっかけ <ul style="list-style-type: none"> ・青梅市陸上競技協会・報知新聞社主催で、「マラソンの普及と強化」を目的に、誰でも参加できる大衆マラソンとして、“円谷選手と走ろう”を合言葉に1967年に始まった。 ●実施体制 <ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会形式で実施している。 ・主催団体は、青梅市、報知新聞社、公益財団法人東京陸上競技協会、青梅市陸上競技協会、一般財団法人青梅マラソン財団で構成している。 ・大会後の処理と次の開催の準備ではほぼ1年中活動している。特に参加者募集を開始する9月から3月までは、青梅市総合体育館に事務局を開設し、受付等を2名常駐で対応している。 ・スポンサー、協賛等の対応事務は青梅マラソン財団が担当している。 ・運営ボランティア募集等は青梅市が担当している。 ・総実行予算1億3千万円、主に参加費で運営している。 ●青梅市陸上競技協会の役割 <ul style="list-style-type: none"> ・主に競技運営を分担している。 ・事業として12月に青梅マラソン走り方講習会を開催している。 ●フルマラソン化 <ul style="list-style-type: none"> ・42.195kmのフルマラソン化を検討したが、迂回路が確保できないなど交通(道路)の制約から実現できない。 ●地元との連携・協力 <ul style="list-style-type: none"> ・「ご当地グルメでまちおこしの祭典！B-1グランプリ」と連携して実施している。 ・走行中の給食として、観光協会を通じて地元和菓子組合の協力で商品開発を進めている。 ・第50回記念大会では、参加者配布タオルに明星大学学生のデザインを採用した。
スポーツを活かしたまちづくり、地域活性化への今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> ●スポーツを活かした地域振興 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の振興に青梅マラソン大会などを活かすよう青梅市に具申している。 ●マラソンでの国内他地域、ドイツとの交流促進 <ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ、ボストン、札幌、二ツ井(秋田県)とは選手等の相互派遣を行なっている。 ●陸上競技の課題解決 <ul style="list-style-type: none"> ・公認施設(陸上競技場)が無く、記録会は周辺市町村の施設で行なっている。

③ NPO 法人青梅市カヌー協会

組織の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 競技スポーツとしてのカヌーの発展のために活動 ・ 設立40年 ・ 今後の事業展開に向けNPO 法人化(2012年) ● 活動拠点 <ul style="list-style-type: none"> ・ 御岳交流センター(艇庫・ 競技大会) ・ 釜の淵公園内クラブハウス(普及活動)
主な活動	<ul style="list-style-type: none"> ● 主なイベント <ul style="list-style-type: none"> ・ 御岳杯争奪カヌースラローム大会 ・ 御岳杯争奪カヌーワイルドウォーター競技大会 ・ 青梅カヌー 駅伝大会 ● 主な事業 <ul style="list-style-type: none"> ・ ジュニア育成事業 ・ 選手強化事業 ・ 指導者育成事業 ● 地域との関係 <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民対象講習会の実施(年 2 回)、一般対象月 1 回 ・ 多摩川水系利用における奥多摩漁業協同組合との棲み分け(時間を分けて利用) ・ 水量の確保における関係…都交通局、西多摩建設事務所 ● スポーツ祭東京2013における役割 <ul style="list-style-type: none"> ・ 競技運営(青梅市では正式種目としてカヌー 競技が開催された) ・ 延べ3,000~4,000人の集客
2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> ● 青梅市出身の選手輩出 <ul style="list-style-type: none"> ・ 青梅市からオリンピック選手を出すことを目標に取り組んでいる。 ● ジャパンカップヘドイツチーム招へい <ul style="list-style-type: none"> ・ (公社)日本カヌー連盟が開催する2016カヌースラロームジャパンカップ最終戦が御岳溪谷にて10月に実施された。 ・ 選手 3 名、監督 1 名、計 4 名を招へいし、交流を深めている。 ・ 台湾・韓国選手も参加している。
スポーツを活かしたまちづくり、地域活性化への今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> ● 青梅市の恵まれた自然環境をスポーツで活かす、観光との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・ カヌー 競技大会(イベント)で、旅行代理店とタイアップし、延べ800人の参加者を得ている。 ・ 同じ河川を使うレジャーとして、ラフティングが盛んになっており、現在、同じエリアで11社を数えるまでになっている。 ・ 多摩川は、カヌーなどのレジャーやバーベキューなど平日でも40・50代の人が多く来訪している。 ● 釜の淵クラブハウスの活用 <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもが電車で来られる立地のため、広域から子どもが集まっている。 ● 河川利用の棲み分け体制の構築 <ul style="list-style-type: none"> ・ 多摩川水系においては、釣り・カヌー・ラフティングは時間的棲み分けによる利用で対応している。

④青梅市トライアスロン協会(KFCトライアスロンクラブ)

<p>組織の概要</p>	<p>両組織ともに、スポーツイベントの開催、地域への貢献を目的に活動 両組織は人材面で共通であり、イベント内容等に応じて、適した組織で活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ●青梅市トライアスロン協会(成木地区にKFCトライアスロンクラブの活動拠点として誕生) <ul style="list-style-type: none"> ・基本的にはKFCトライアスロンクラブが様々な活動を行なっているが、青梅市での活動などにおいて青梅市トライアスロン協会が主体的に活動している。 ●KFCトライアスロンクラブ <ul style="list-style-type: none"> ・国内外で広範に活動している。 ・各地域での活動事業(プログラム)にはそれぞれ専任のメンバーで対応している。
<p>主な活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●主な活動種目 <ul style="list-style-type: none"> ・トライアスロン、ヒルクライム型サイクリング、オープンウォーター、トレイルランなどアウトドアスポーツ全般にわたり、実施している。 ・青梅市トライアスロン協会の活動としては、この地域ではトライアスロン種目のうち水泳ができないため、葉山、南伊豆などで水泳競技を実施している。 ●青梅市成木地区(成木の家)での活動 <ul style="list-style-type: none"> ・20年前KFCの成木での事業に対し、地元からの積極的支援があった。そこで交流が深まったことにより、拠点を置き、青梅市トライアスロン協会が発足した。 ・活動拠点(成木の家)は地域の活性化(元気・自信)の拠点となっている。 ・成木の家は、地元炭焼き小屋跡にログハウス風施設として地域住民の手により建設されたものであり、成木地区でのハイキング客などの休憩、サービス提供の目的も含んでいる。 ●みたけ山トレイルラン <ul style="list-style-type: none"> ・御岳地区の閑散期対策として、12月に地元の要請により開催している。 ・当初は参加者100人足らずであったが、現在は1,000人に拡大している。 ・地元自治会、人、地元商店街、青梅市観光協会の協力で実施している。 ・半分がリピーターで、仲間を連れての参加がある。 ・トレイルランはハイカーとのルールづくりが重要であり、事故の無いように努めている。 ●行政との関係(KFC事業) <ul style="list-style-type: none"> ・行政から依頼されたトレイルランなどのイベントを実施している。 ・日の出町、檜原村、八王子市、小菅村(山梨県)など、都内外市町村で実績がある。 ・実施にあたっては、地元(住民)からマンパワー、サービス、コース整備などの提供を受けている。 ・活動に縛りが出ないように、基本的に補助金を利用せずに実施している。 ・国体でサイクリング競技をサポートした経験がある。 ●自主事業の理念 <ul style="list-style-type: none"> ・補助金による事業への制約を避けるため、参加費での運営を基本とする。 ・参加費を上げると熱心な参加者に絞り込むことができる。(モラル、安全、運営面からも適正価格が必要) ・遊びの延長として活動、身の丈の活動を心掛けている。これが長く続ける秘訣でもある。 ・活動ごとに精算し、余剰金は地域に還元している。(地域の人々の協力及び道・山など地域のものを使うため、地元へ還元) ●2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた取組 <ul style="list-style-type: none"> ・特になし
<p>スポーツを活かしたまちづくり、地域活性化への今後の展望</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の協力者に対し、元気、自信を与える地域の活性化に結び付けたい。 ・地域での活動に共鳴し、地元に戻る人も出現している。 ・経済的な活性化には程遠いが、遊びの延長として楽しく実施している。 ・イベント開催により、開催地域の知名度向上にも一役買っている。

(2)まちづくり等関係団体

①青梅商工会議所

組織の概要	<ul style="list-style-type: none"> ●青梅市、奥多摩町のエリアで商工業の改善発達、福祉の増進を目的に活動 ●会員数2,200社 ●6部会構成(商業・工業・機械電子・観光・サービス・建設)
主な活動	<ul style="list-style-type: none"> ●主な活動 <ul style="list-style-type: none"> ・企業サービス(金融・助成金活用、研修・セミナー、交流・情報交換、福利厚生) ・産品開発(ご当地グルメ・肉うどん(トウキョウX)、スイーツ開発。山ガールや2020年東京オリンピック・パラリンピックのインバウンドをターゲットとした商品開発) ●地域産業活性化に向けた事業 <ul style="list-style-type: none"> ・青梅産業観光まつりの実施 ・まちゼミ、まちバル、100縁商店街の実施 ・御岳山「おいぬさま」「インバウンド」プロジェクトの実施 ・まちづくり支援、中心市街地活性化協議会 ・映画看板による街並みづくり(東京都補助事業で明星大学芸術学部による看板制作の協力を得て、看板整備を行なった)
スポーツ活動との関係	<ul style="list-style-type: none"> ●青梅マラソン大会との関係 <ul style="list-style-type: none"> ・以前は参加者の記録を採る作業を受け持っていた。現在はICで記録を採っているため、直接は関わっていない。 ・参加者に配るタオルデザイン等へのコーディネート支援を行なっている。また、平成28年度から、青梅マラソンゆず饅頭をランナーに給食する予定である。 ・会員組織や個人として参加している人は関係者に多くいる。 ・グルメフェスティバルにはブースを構え、地元の産品出展を支援している。
スポーツを活かしたまちづくり、地域活性化への今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> ・商工会議所の若い会員の市内スポーツイベントへの参加を支援している。 ・特にスポーツに関係した地域活性化、2020年東京オリンピック・パラリンピックに関連した事業を検討中である。例えば、ご当地グルメの提供などでスポーツイベントに参加するような形。

②一般社団法人青梅市観光協会

組織の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・市内7つの観光協会を取りまとめる中心的な組織である。専任スタッフが存在する。 ※市内には各地域に観光協会があるが、各観光協会の会長が青梅市観光協会の理事となっている。そうした意味でも日頃から協力連携が成されている。 ●青梅の観光特性 <ul style="list-style-type: none"> ・御岳山や御岳溪谷の風景、景勝地 ・多摩川を挟んで点在する名所旧跡や美術館など ・吉野梅郷、塩船観音寺などの花や緑、紅葉など ・近年、多摩川水系の山岳・水系のレジャースポーツ、レクリエーションが増加(カヌー、ボルダリング、ラフティングなど) ・閑散期は12月～4月(2～3月の梅の時期を除く) 																
主な活動	<ul style="list-style-type: none"> ●主なイベント <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">・だるま市</td> <td style="padding: 2px;">1月12日</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">・青梅マラソン大会</td> <td style="padding: 2px;">2月中旬</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">・観梅市民まつり</td> <td style="padding: 2px;">3月中旬</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">・塩船観音つつじまつり</td> <td style="padding: 2px;">4月中旬～5月上旬</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">・青梅大祭</td> <td style="padding: 2px;">5月2日、3日</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">・吹上花しょうぶまつり</td> <td style="padding: 2px;">5月下旬～6月下旬</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">・青梅市納涼花火大会</td> <td style="padding: 2px;">8月上旬</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">・青梅産業観光まつり</td> <td style="padding: 2px;">11月上旬</td> </tr> </table> ●御岳交流センターの指定管理受託(艇庫・会議室・交流室・駐車場など) 	・だるま市	1月12日	・青梅マラソン大会	2月中旬	・観梅市民まつり	3月中旬	・塩船観音つつじまつり	4月中旬～5月上旬	・青梅大祭	5月2日、3日	・吹上花しょうぶまつり	5月下旬～6月下旬	・青梅市納涼花火大会	8月上旬	・青梅産業観光まつり	11月上旬
・だるま市	1月12日																
・青梅マラソン大会	2月中旬																
・観梅市民まつり	3月中旬																
・塩船観音つつじまつり	4月中旬～5月上旬																
・青梅大祭	5月2日、3日																
・吹上花しょうぶまつり	5月下旬～6月下旬																
・青梅市納涼花火大会	8月上旬																
・青梅産業観光まつり	11月上旬																

スポーツ活動との関係	<ul style="list-style-type: none"> ●青梅マラソン大会との関係(連携) <ul style="list-style-type: none"> ・前夜祭にうどん等飲食物の提供(2016年まで)。2017年からは給食(青梅マラソンゆず饅頭)を行なう。 ・市役所駐車場のグルメフェスティバルエリアで物産店(ブース)を出店している。 ・市役所駐車場で足湯を開設し、参加者の労をねぎらうおもてなしを行なっている。 ●その他のスポーツイベント <ul style="list-style-type: none"> ・御岳山トレイルランジュニアでは、事務局をサポートしている。 ・御岳交流センターでは、青梅市カヌー協会に対し艇庫を貸し出し、活動拠点として協力している。 ●2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた取組 <ul style="list-style-type: none"> ・特にない
青梅市観光の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・首都圏からの日帰りが可能な観光地のため、スポーツ、レジャーの客が宿泊に結びつかない状況を改善したい。 ・特に温泉地の利用者減、施設の老朽化も著しい。 ・釣り(漁協)、カヌー、ラフティングにおける利用時間等の調整も必要のように思われる。
スポーツを活かしたまちづくり、地域活性化への今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> ●スポーツやレジャーの来訪者を宿泊、飲食などに結び付ける工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ合宿の問い合わせなどに対し、現状では宿泊施設を紹介している。 ・スポーツイベント、合宿などと観光事業のタイアップ(連携強化)をしていきたい。

③青梅市まちづくり経済部商工観光課

青梅市の産業の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・東部に工業(製造業)団地の立地(圏央道により市外と連携) ・市内に16商店街(いずれも事業継承が課題) ・北部は高齢化が進行 ・北部、東部、西部の連携促進も課題
商業観光とスポーツとの関係	<ul style="list-style-type: none"> ●御岳山(寺、宿坊、山岳観光)の文化観光の推進(欧米からの旅行者等がターゲット) <ul style="list-style-type: none"> ・宿坊に来訪する欧米系の外国人観光客が増えており、文化を前面に出した誘客活動を進めたい。 ・2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた対応を進めている。 ●御岳山でのトレイルラン <ul style="list-style-type: none"> ・地元商店街、観光協会、トライアスロン協会等との連携によって推進されている。 ●青梅マラソン大会 <ul style="list-style-type: none"> ・課として直接的な関係は持っていない。(スポーツ推進課にて推進)
2020年東京オリンピック、パラリンピックに向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> ●インバウンドに視点をあてた対策 <ul style="list-style-type: none"> ・Wi-Fi環境の整備、外国語(英語標記)サイン類の整備を進めている。 ●ホストタウンキャンプ誘致(企画政策課にて推進) ●ボッパルト市との交流(秘書広報課にて推進)
スポーツを活かしたまちづくり、地域活性化への今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> ●「おうめ!観光戦略創造プロジェクト」に着手 <ul style="list-style-type: none"> ・観光、交通、市内事業者などによる観光プロジェクトの検討を始めている。

④株式会社まちづくり青梅

組織の概要	<ul style="list-style-type: none"> ●設立趣旨 <ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地活性化法により設立されたまちづくり会社 民間事業者としてのノウハウを最大限に活用し、歴史的な地域資源と豊かな自然を両立させた景観形成、イベントや地域特性を活かした商業、観光振興などの施策を、多様な政策分野と連携し、“まちのマネジメントを推進していく組織”として設立 ●組織構成(主な株主) <ul style="list-style-type: none"> ・青梅市、青梅商工会議所、地域商店街組織、青梅織物工業協同組合等 ●経営方針 <ul style="list-style-type: none"> ・常にまちづくりの研究を行ない、青梅のまちにふさわしい、次代へとつなげる事業を展開 ・関係する機関、団体、市民との連携、協働を重視した体制を構築し、事業を推進 ・事業利益は、まちの発展を第一に考え、まちの価値向上のために再投資 ・積極的な広報活動を行ない、情報の流通に努める。
主な事業	<ul style="list-style-type: none"> ●空き店舗事業 <ul style="list-style-type: none"> ・青梅の市街地エリアで、物件オーナーと起業者のマッチングをサポート ・青梅商工会議所創業支援センターとの連携による創業支援 ●おうめマルシェ事業 <ul style="list-style-type: none"> ・スーパーマーケットの代わりとなる常設マルシェ拠点づくり ・隔月第3土日開催 ・マーケット+商店街まち歩きの促進 ・会場は住江町駐車場(青梅駅から徒歩5分)と本町住江町商店街 ・スタンプラリーで商店街の名店歩き、休日のランチやティータイムなどと連携 ・農産物やパンなどの安全安心な衣食住を提供する若手事業者による出店 ●駐車場の経営 <ul style="list-style-type: none"> ・市街地内に8箇所の駐車場の経営 ・上町駐車場、仲町駐車場におけるカーシェアリング運営
まちづくりとの関係	<ul style="list-style-type: none"> ●観光、スポーツとの関わり <ul style="list-style-type: none"> ・サイクリング事業者と連携し、シャワー施設などの空き家への誘致を進めている。 ●中心市街地活性化法の推進(タウンマネージャーの活躍) <ul style="list-style-type: none"> ・各種事業により、人と人との結びつきという効果が出始めている。
スポーツを活かしたまちづくり、地域活性化への今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> ・今までに特別な取組はないが、観光、スポーツ、レジャーなどとの連携は今後の課題として検討したい。

(3)関係団体等ヒアリング調査のまとめ

●青梅市の環境条件を活かしたスポーツツーリズムの推進

- ・スポーツに限らず、青梅市の自然を活かし、人を呼び込むことについて、各組織間に共通認識があり、スポーツツーリズムへの取組に前向きな意見が多く聞かれた。
- ・交通の利便性により日帰り圏となっていることで、宿泊に結びつきにくい点などを指摘する声も多いが、一方で、「気軽に来られること」は、最大の競争力であるとの認識もある。
- ・市は、総合的な観光戦略に取り組む「おうめ！観光戦略創造プロジェクト」に着手しており、スポーツもその大きな要素として捉えられている。

●組織・人材

- ・地域の活性化に積極的な組織や人材が多くあることを確認できた。
 - ・これらの組織や人がどのように連携できるかが今後の取組の鍵といえる。
 - ・青梅マラソン大会が築き上げてきたおもてなしの環境や住民意識、ボランティア活動の蓄積がある。
- ※「おもてなしの環境」とはグルメフェスティバルの開催や足湯の提供などの関係団体によるものだけでなく、コース沿道の自治会及び個人による応援や給水等が自主的に行われている状況を指す。

●広域的取組

- ・青梅マラソン大会の実施における奥多摩町との連携、西多摩広域行政圏の連携によるスポーツへの取組など、広域的取組の盛んな地域特性を持っている。

4. 住民等アンケート調査

(1) 意向調査の概要

①実施目的と方法

スポーツを活用した地域の活性化に対する住民の意向を把握することを目的にアンケート調査を実施した。対象は、青梅市内の協力企業、都立高校、行政(市役所)とし、青梅マラソン大会にボランティア参加している人々を中心に、ボランティア参加の動機や今後の継続、スポーツを活かしたまちづくりなどに対する意向を調査した。

②実施期間

平成28年11月下旬から12月上旬

③回収票数

<一般用>

・青梅市役所及び市内協力企業 266票

<高校生用>

・市内都立高校 76票

※配布・回収は、各組織に依頼しており、正確な配布数、回収率等は把握できていない。

④回答者属性

図表C-4 回答者属性

		一般		高校生	
		件数	%	件数	%
総数		266	100.0	76	100.0
性別	男性	193	72.6	43	56.6
	女性	70	26.3	33	43.4
	無回答	3	1.1	0	0.0
年齢	20代	60	22.6		
	30代	53	19.9		
	40代	45	16.9		
	50代	71	26.7		
	60代	36	13.5		
	70代	0	0.0		
	80歳以上	1	0.4		
	無回答	0	0.0		
居住地	市内	154	57.9	30	39.5
	市外	111	41.7	46	60.5
	無回答	1	0.4	0	0.0

(2)集計結果

一般用と高校生用では、設問の仕方、選択肢に若干の違いがあり、単純比較はできない。

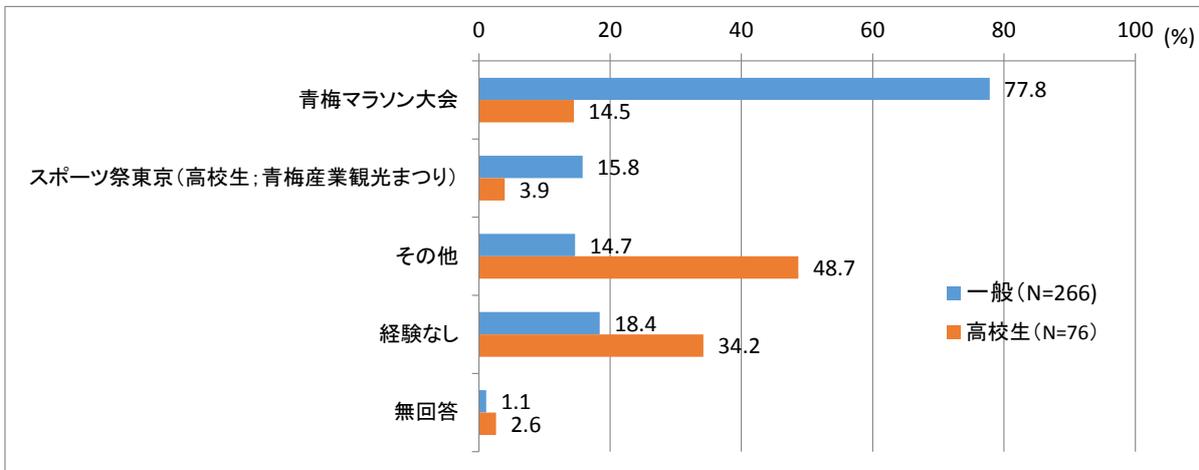
①ボランティア活動の経験

一般回答者の77.8%が青梅マラソン大会のボランティア経験を持っている。

一方、高校生は14.5%にとどまっている。今回アンケート調査に協力いただいた市内都立高校では1年時の授業で「奉仕(主にボランティアなどを実施)」が必修単位となっているが、青梅マラソン大会が2月開催ということも影響していると考えられる。

また、一般回答では2013年に開催されたスポーツ祭東京において15.8%がボランティアを経験している。

図表C-5 ボランティア活動の経験 (M.A.)

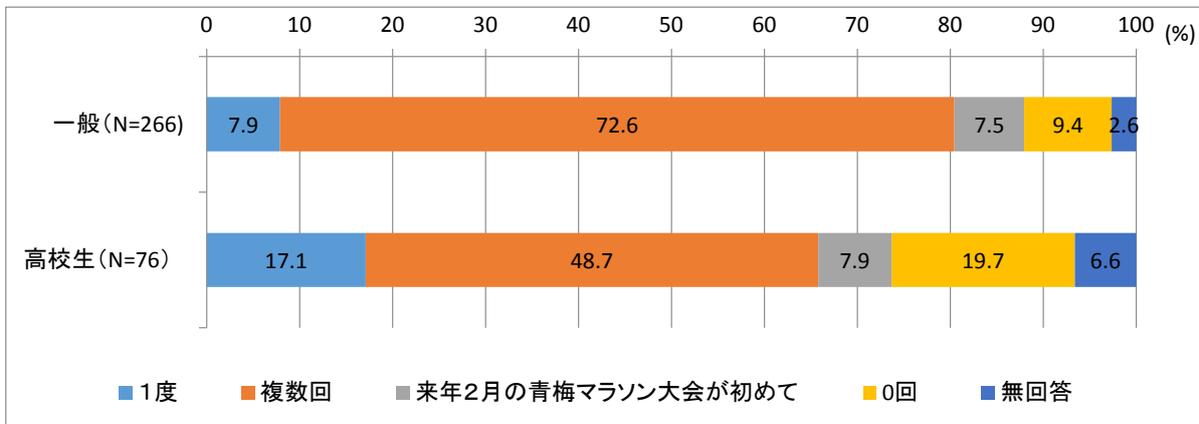


②スポーツボランティア回数

一般の方のスポーツボランティア経験回数は、「複数回」が72.6%、「1回」が7.9%、「来年(2017年)2月の青梅マラソン大会参加が初めて」であるのが7.5%である。8割以上がスポーツボランティア経験を持っていることがわかる。

高校生には、スポーツに限らず様々なボランティア経験の回数を聞いており、複数回が48.7%、1回が17.1%となっている。

図表C-6 スポーツボランティア回数 (S.A.)



③参加のきっかけ・動機

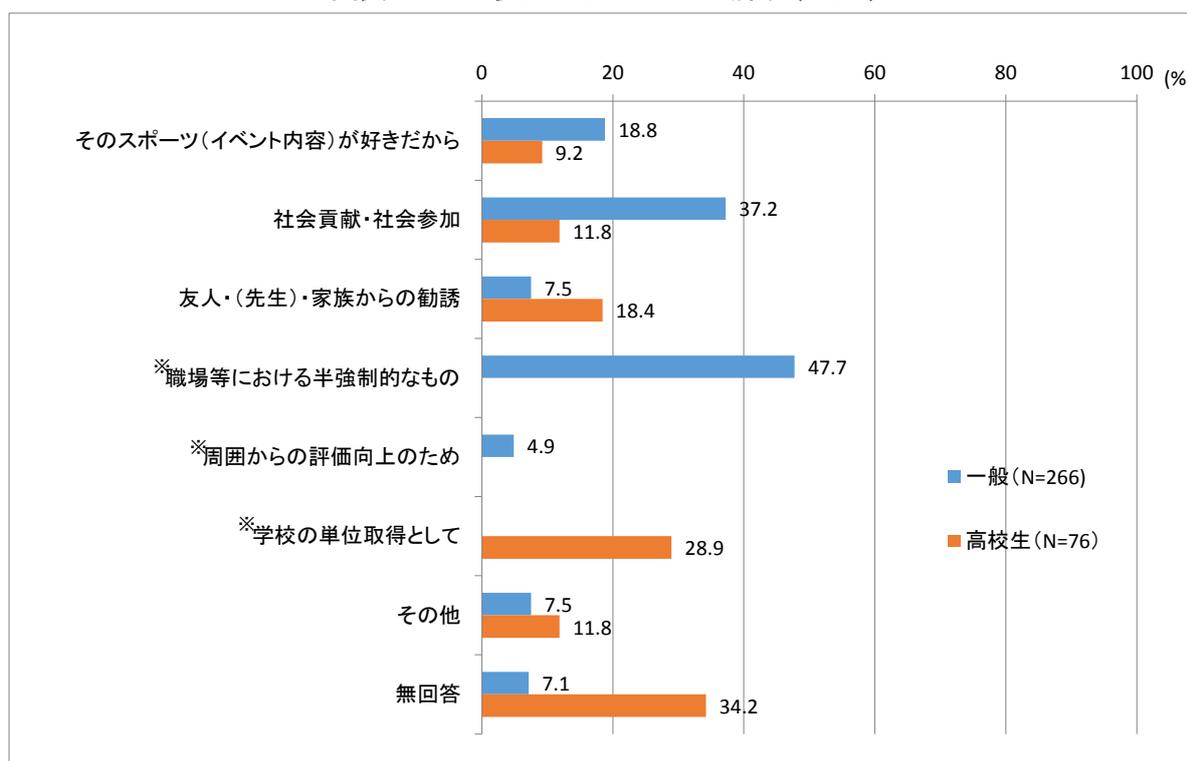
一般では「職場等における半強制的なもの」が47.7%、一方、自主的と思われる「社会献・社会参加」が37.2%、「そのスポーツ(イベント内容)が好きだから」が18.8%となっている。

高校生では「学校の単位取得として」が28.9%、「友人・先生・家族からの勧誘」が18.4%、「社会貢献・社会参加」が11.8%となっている。

青梅マラソン大会を支えるボランティアの多くは、市内の事業所の協力により支えられていることがわかる。

※高校生で無回答が34.2%と多いのは、ボランティア経験がない者の回答が反映されていることも一因である。

図表C-7 参加のきっかけ・動機 (M.A.)



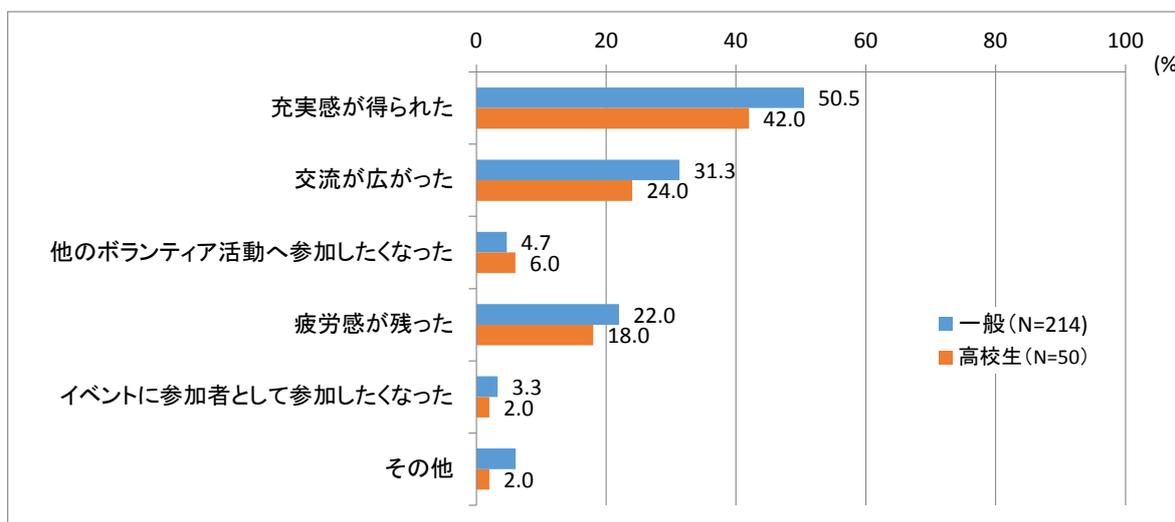
※「職場等における半強制的なもの」、「周囲からの評価向上のため」は一般のみの選択肢。「学校の単位取得として」は高校生だけの選択肢。

④ボランティア参加の感想

ボランティア経験がある方だけの設問として、ボランティア参加の感想を聞いたものが図表C-8である。一般・高校生ともに、「充実感が得られた」がそれぞれ50.5%、42.0%と最も多くなっている。続いて「交流が広がった」がそれぞれ31.3%、24.0%と、参加したことをプラスと受け止めている人が多い。

一方、「疲労感が残った」とする回答も、それぞれ22.0%、18.0%となっている。

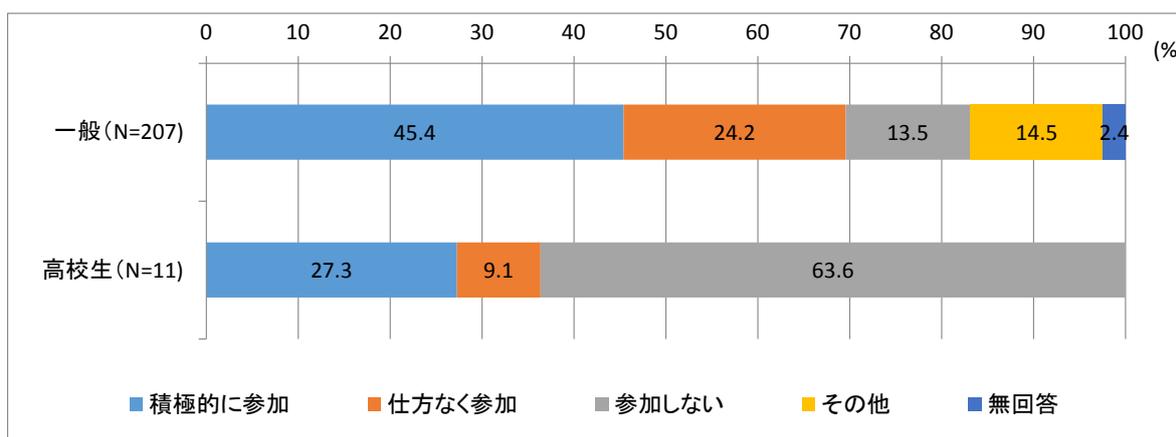
図表C-8 ボランティア参加の感想 (M.A.)



⑤今後の青梅マラソン大会ボランティアへの参加意向

青梅マラソン大会のボランティア経験がある方だけの設問として、ボランティア参加の感想を聞いたものが図表C-9である。一般では、「積極的に参加」が45.4%、「仕方なく参加」が24.2%となっている。半数近くの人が、今後も「積極的に参加」と回答し、「仕方なく参加」を加えると7割近くの人が、参加の意向を示している。

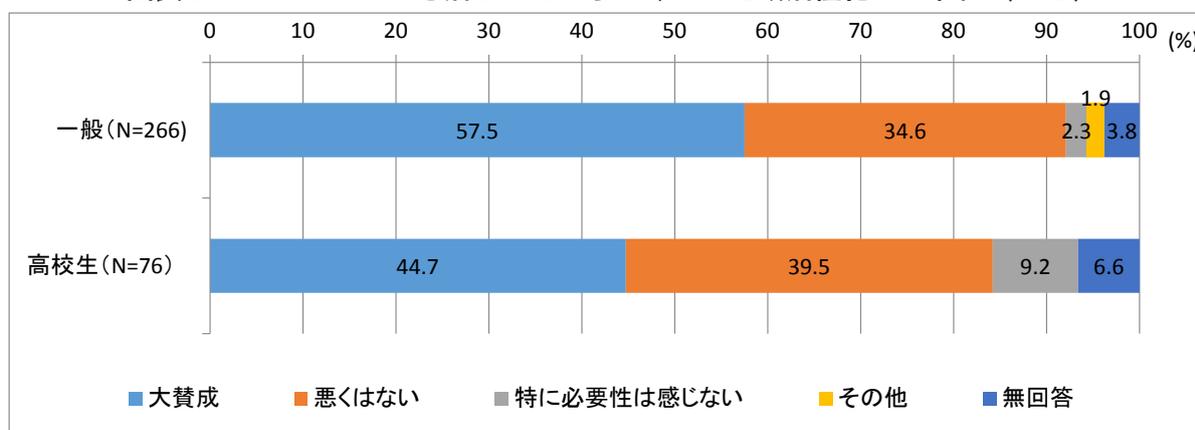
図表C-9 今後の青梅マラソン大会ボランティアへの参加意向 (S.A.)



⑥スポーツを活かしたまちづくり・地域活性化への取組

青梅市が「スポーツを活かしたまちづくり・地域活性化に取り組むこと」に関し、積極的に賛成しているのは、一般では57.5%、高校生では44.7%と高く、さらに消極的な賛成(「悪くない」)を加えると一般92.1%、高校生84.2%と、主に肯定的に捉えている回答が多い。

図表C-10 スポーツを活かしたまちづくり・地域活性化への取組 (S.A.)



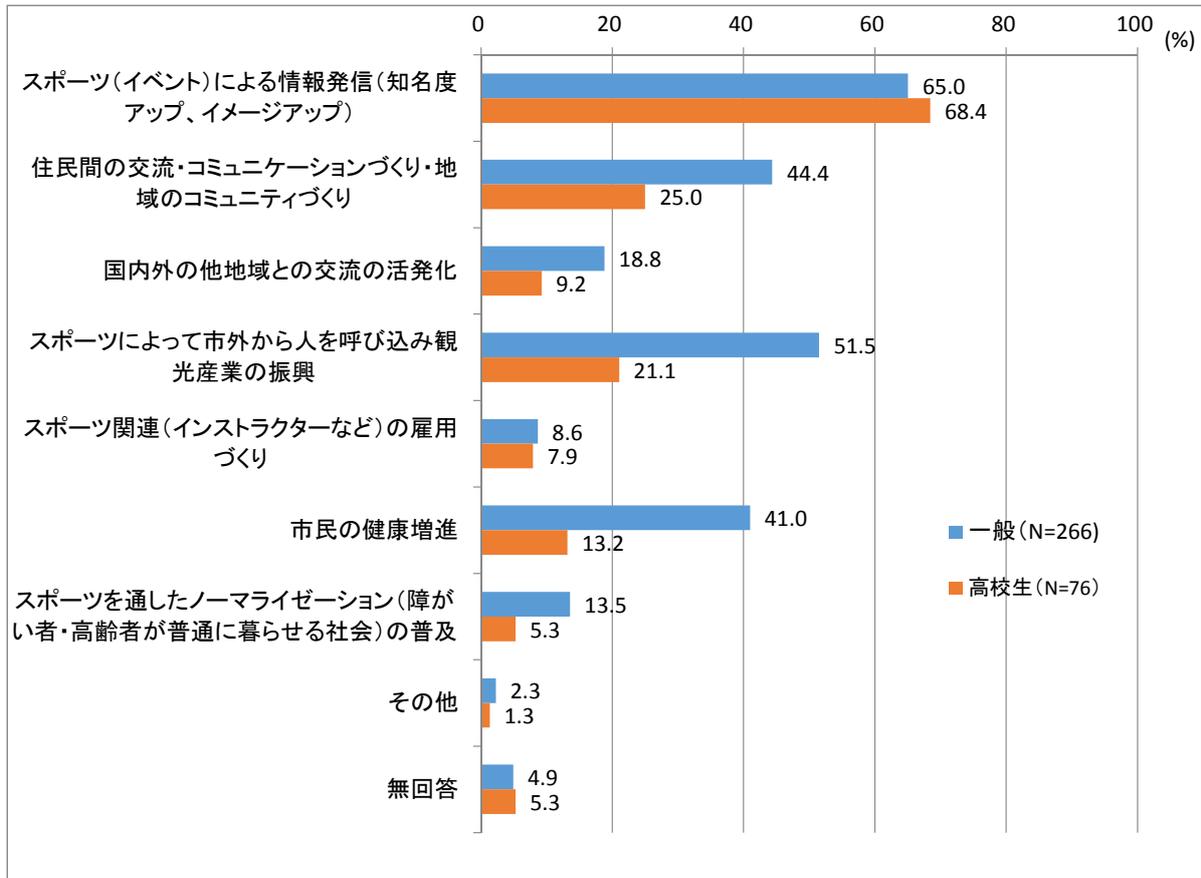
⑦スポーツを活かしたまちづくり・地域活性化の取組への考え方

青梅市でのスポーツを活かしたまちづくり・地域活性化の取組分野として好ましいと思う分野は、一般、高校生ともに、「スポーツ(イベント)による情報発信(知名度アップ、イメージアップ)」とする回答が最も多く、それぞれ、65.0%、68.4%となっている(次ページ図表C-11)。

続いて、一般では「スポーツによって市外から人を呼び込み観光産業の振興」51.5%、「住民間の交流・コミュニケーションづくり・コミュニティづくり」44.4%、「市民の健康増進」41.0%が高くなっている。高校生では、「住民間の交流・コミュニケーションづくり・コミュニティづくり」25.0%、「スポーツによって市外から人を呼び込み観光産業の振興」21.1%が高い。

一般で、「スポーツによって市外から人を呼び込み観光産業の振興」が高いのは、回答者が市役所職員、市内協力企業職員といった職業柄が影響している可能性がある。

図表C-11 スポーツを活かしたまちづくり・地域活性化の取組として好ましいと思う分野 (M.A.)



(3) 住民等アンケート調査のまとめ

●市内企業の協力により確保

・青梅マラソン大会を支えるボランティアの多くは、市内の事業所の協力により支えられていることがわかる。

●参加による充足感

・ボランティア参加者の多くは、充実感を得られている。消極的参加も含めてではあるが、今後も継続してボランティア参加が得られるであろう様子が読み取れた。

●大多数の方が「スポーツのまちづくり」を肯定

・一般回答者、高校生ともに、「スポーツのまちづくり」を前向きに捉えている。

●市民が期待するスポーツの地域活性化効果

・「情報発信(知名度アップ、イメージアップ)」、「スポーツによって市外から人を呼び込み観光産業の振興」、「住民間の交流・コミュニケーションづくり・コミュニティづくり」に期待する声が多い。

5. 青梅市におけるスポーツコミッションのイメージ

自治体アンケート青梅市該当部分、自治体ヒアリング青梅市該当部分、ケーススタディから、図表4-1フロー(P62)に沿って、青梅市においてスポーツコミッションを設立する場合を想定した検討を行なった。

(1) 求められる効果(課題)【フロー図①】

課題及びスポーツに求める効果は次のようであった。

<地域課題>(青梅市自治体アンケート)

- コミュニティの希薄化・崩壊
- 個性ある地域づくり(地域アイデンティティ醸成)
- 地域のインフラ整備
- 地域経済の活性化(観光消費等の拡大)、産業(雇用)の拡大創出

<求める効果>(青梅市自治体アンケート)

- スポーツの振興
- 住民の健康増進
- 障がいへの正しい理解の普及啓発
- 地域アイデンティティの醸成
- 地域のPR・情報発信
- 地域交流・国際交流の推進
- スポーツ活動の場としての誘客型観光産業育成(振興)

<求める効果>(住民等アンケート)

- 情報発信(知名度アップ、イメージアップ)』
- スポーツによって市外から人を呼び込み観光産業の振興
- 住民間の交流・コミュニケーションづくり・コミュニティづくり
- 市民の健康増進

(2) 求める効果から見たスポーツ活用タイプの必要性【フロー図②】

(1)を参考に必要性の観点から、図表2-3(P18)を活用して整理を行なった。

(必要性の高さ◎○△)

①プレイ型→△

- ・市民の健康増進が求められているものの、その他の課題や求める効果を解決する手段にはなりづらい。

②ホームタウン型→◎

- ・コミュニティ形成、地域アイデンティティ醸成、地域の情報発信、及びインフラ整備が求められていることに対応できる。

③イベント開催型→◎

- ・地域アイデンティティ醸成、地域の情報発信、地域交流・国際交流の推進が求められていることに対応できる。

④支援型→○

- ・コミュニティ形成や障害への理解促進が求められているものの、人材や組織の育成は求められていない点で、十分に効果を発揮できない可能性がある。

⑤スポーツリゾート型→◎

- ・誘客型の観光消費効果が求められていることに対し、十分に対応できる。

⑥キャンプ・合宿型→◎

- ・誘客型の観光消費効果やインフラ整備が求められていることに対し、十分に対応できる。

⑦スポーツ関連産業型→△

- ・スポーツ関連産業の活性化は挙げられておらず、優先順位が高くはないと見られる。

(3)条件から見たスポーツ活用タイプ選択の可能性の検討【フロー図③】

地域に適したスポーツ活用タイプを選択するにあたり、青梅市が各タイプの選択条件を備えているかを評価した。

タイプ	スポーツ活用タイプ選択のための条件整理	評価 (◎○△)
①プレイ型	<ul style="list-style-type: none"> ・市民体育大会や西多摩広域行政圏のスポーツ大会など、地域スポーツが盛んである。 ・総合型地域スポーツクラブはあるが、活動休止状態にある。 	△
②ホームタウン型	<ul style="list-style-type: none"> ・カヌーは全国的なトップアスリートを抱える種目であり、国内大会も盛んに行われているが、大きな集客はない。 ・御岳交流センターのカヌースラロームコースのように国際基準を満たした練習施設がある。 	△
③イベント開催型	<ul style="list-style-type: none"> ・51回を数える全国草分けの市民マラソンとして青梅マラソン大会があり、全国区で通用する情報発信に寄与している。 ・青梅マラソン大会、カヌー大会は外国人選手の招待など国際交流に寄与している。 ・集客数は少ないものの、カヌー競技の全国レベルのイベントが実施されている。 	◎
④支援型	<ul style="list-style-type: none"> ・青梅マラソン大会では、ボランティアによる運営、選手のサポートが行われている。また、沿道では自治会などを中心に給水など様々なおもてなしが自発的に行われている。 ・ロンドン、リオパラリンピックに出場したゴールボールは選手の出身地として、障がい者スポーツへの理解も進んでいる。 	○
⑤スポーツリゾート型	<ul style="list-style-type: none"> ・吉野梅郷、御岳山、御岳渓谷など首都圏の中でも自然に触れやすい場所として、親しまれている。新宿から青梅まで約1時間の利便性が日帰り圏となり、宿泊や大きな観光消費に結びつかない。 ・青梅マラソンコースを歩く会(青梅市体協)、多摩川水系を利用したレジャースポーツやレクリエーションも日帰り客が大半である。 ・御岳山、御岳渓谷における山岳系のレジャースポーツ(山歩き・トレッキング・サイクリング・ボルダリングなど)や多摩川水系の湖沼、河川のレジャースポーツ(カヌー・ラフティング・釣り・バーベキューなど)が旺盛である。 ・地元とKFCトライアスロンクラブによるトレイルランの実施などがある。 ・青梅駅前の映画看板のまち、昭和レトロを売りにした商店街の取組に特徴がある。 	◎
⑥キャンプ・合宿型	<ul style="list-style-type: none"> ・2020年東京オリンピック・パラリンピックにおけるカヌー競技の事前キャンプ地として誘致活動(ドイツチームとの交流)を進めている。 ・温泉施設などはあるがまとまった団体の受け入れ宿泊施設に課題がある。 ・関係者ヒアリングからはキャンプ地づくりを望む声もあった。 ・御岳渓谷は国際基準を満たすカヌー競技施設として、大会の開催だけでなく、本格的な練習などのキャンプ地として適している。 	○
⑦スポーツ関連産業型	<ul style="list-style-type: none"> ・青梅マラソン大会時において、給食として提供する菓子の商品開発などに着手している。 ・青梅マラソン大会時に、青梅のブランド豚肉トウキョウXを活用した肉うどんなどのB級グルメを集めたグルメフェスティバルを実施している。 	△

(4) 必要性から見たスポーツ活用タイプの選択【フロー図④】

(2)の必要性を軸に、(3)の選択条件を考慮し、どのスポーツ活用タイプを青梅市が選択することが適切かを整理した。

- ・③イベント開催型、⑤スポーツリゾート型の活用タイプを主軸に置いたものが考えられる。
- ・それらを付加的にカバーするものとして、④支援型(条件に適した活用タイプ)、⑥キャンプ・合宿型への対応も考慮する。
- ・①プレイ型、②ホームタウン型、⑦スポーツ関連産業型の可能性もあるが、本スタディでは除外する。

(5) スポーツ活用タイプに対応したスポーツコミッションの機能【フロー図⑤】

青梅市において(4)で挙げたようなスポーツの活用方法を行なっていく上で、必要なスポーツコミッションの機能は、次のことが考えられる。

i. スポーツイベント実施ノウハウの活用

スポーツコミッションは、各種イベント開催のノウハウ・人材を活かし、市内で行われる様々なスポーツイベントの企画(誘致)運営、支援を行なう。

ii. 多様な観光入込の仕掛けづくり

自然環境を活かしたサイクリング・トレイルラン・ラフティング・ボルダリングなどのスポーツリゾート地として、小規模なスポーツイベントを継続的に実施する。そこから多様な種目による通年の観光入込の確保を行なう。

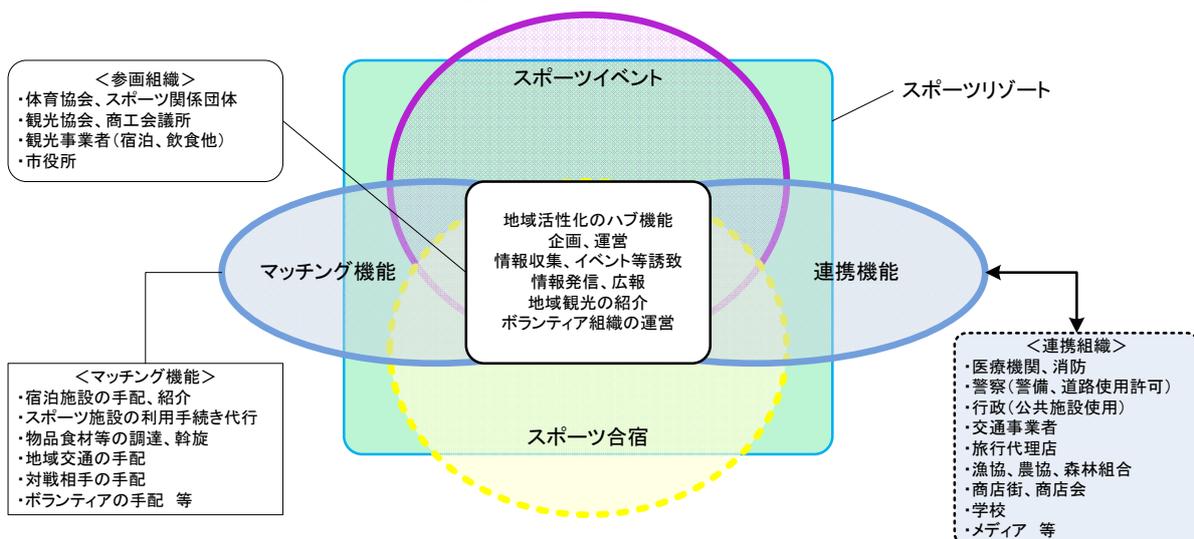
iii. スポーツと地域の活性化をつなぐマッチング機能

スポーツイベントの観戦者・参加者やスポーツをしに来た人に、市内で滞留・滞在してもらい、観光消費を誘発する仕組みの企画運営・ネットワーク機能を構築する。これは現在、青梅市において最も弱い部分と言える。

iv. スポーツキャンプ・合宿などへの対応(次のステップとして)

スポーツキャンプ・合宿には、スポーツ施設・宿泊施設・食事、さらには移動の手段や対戦相手をセットするマッチング機能も必要である。

図表C-12 青梅市スポーツコミッションのイメージ



図表C-13 青梅市スポーツコミッションに必要な機能

(図表2-6にあてはめたものP30~31)

機能 タイプ	組織のハブ機能		事業運営機能			地域資源集約機能		
	i. 関係団体・企業・住民・行政等の協議・連絡の事務局的機能	ii. スポーツ産業創生関係事業者の連携	i. 企画・運営機能	ii. 情報収集・営業機能	iii. 情報発信機能	i. 地域観光の紹介(観光事業者との連携)	ii. 関係団体への許認可等代行 警察・消防等との連携 医療等の手配・連携	
③イベント開催型	◎		◎	◎ イベント誘致	◎ イベント開催情報・観光情報	○	◎	◎
④支援型	◎		○		△ ボランティアへの情報発信			
⑤スポーツリゾート型	◎		○		◎ 観光情報	○		
⑥キャンプ・合宿型	◎		○	◎ キャンプ誘致	○ 施設情報等	○	△	○

◎必須の機能 ○必要な機能 △あった方が良い機能

機能 タイプ	地域資源集約機能					住民との連携機能		
	iii. スポーツマッチング機能					i. ボランティア活動の運営	ii. 健康増進・スポーツプログラムの提供	
	宿泊施設の手配・紹介	スポーツ施設の利用手続き代行	物品食材等の調達・斡旋	地域内交通の手配	試合相手の紹介		市民の健康管理	スポーツクラブ事業
③イベント開催型	△ 観光事業者への紹介		◎	○		◎		
④支援型						◎ イベントやホームタウン試合の支援		
⑤スポーツリゾート型	○ 観光事業者への紹介	○ 施設ニーズに対応						
⑥キャンプ・合宿型	◎	◎	○	○ 団体移動への対応	◎			

◎必須の機能 ○必要な機能 △あった方が良い機能

(6) スポーツコミッションの組織形態【フロー図⑥】

○公益性を持ち自立した組織

- ・スポーツを活用した地域活性化を行政と共に推進する民間組織で、行政のパートナーとして位置付ける。
- ・青梅マラソン大会の具体的な企画、運営、実施は、実行委員会によって実施されているが、ボランティアの募集、教育などその一部を担う組織として、公益性を持つ組織形態が適している。また、長年にわたり蓄積されてきたボランティア参加、おもてなしの土壌を活かし、これらボランティア活動の場づくり等を行ない地域の人材育成を推進するための中心的役割を担う。
- ・公益性の確保が基本であるが、行政の支援に頼らず、自立できる組織として、収益性を持った自主事業を実施する。
- ・地域に利益をもたらすことを目的とし、地域（事業者）の利益から分配を受け、事業の維持、拡充を図る。

※アメリカでは宿泊税の一部がスポーツコミッションに割り当てられる仕組み（観光協会などを経由）になっており、スポーツイベントの実施などで宿泊客を増やす事業に取り組んでいる。会員費など可能な手法で努力が報酬として還元されるような仕組みづくりが必要である。

○各種スポーツイベントの企画・実施、誘客促進ができる組織

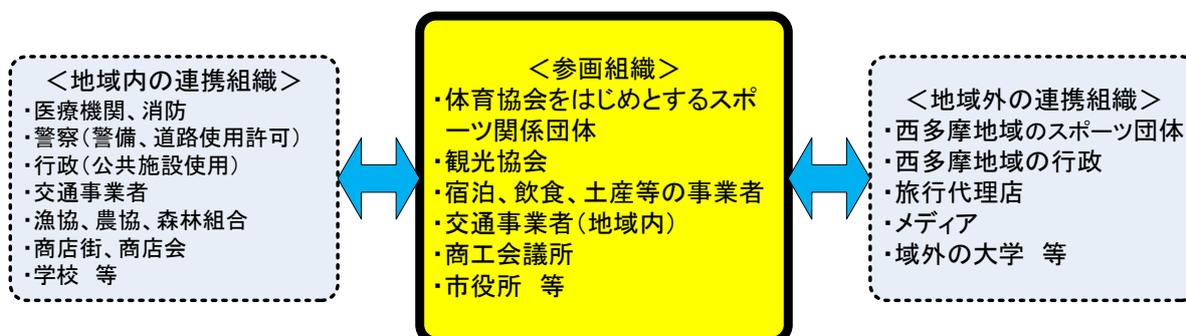
- ・青梅の自然環境を活かし、四季折々のスポーツイベントを企画・運営するノウハウや、人材を活用する。特に、閑散期の集客事業として、カヌー、ラフティング、トレイルラン、ヒルクライム、ボルダリングなどへの取組を強化し、関連する事業者や観光事業者と一体となって、集客を地域内での消費活動に結び付ける機能を発揮する。
- ・道路、河川等利用に関する申請、代行のノウハウなど、イベント実施、さらには地域外からの活動団体への煩雑な便宜を図るなどのマッチング機能を発揮する。
- ・スポーツ、観光のサービスのノウハウや人材を結集し、ワンストップで対応できるサービス提供を行なう。

○ネットワーク機能の要

- ・スポーツ誘客を推進する役割とともに、その効果を地域に活かすため、飲食、宿泊、土産などの事業者との連携、また、交通機関や万が一の医療機関などとの連携の要として機能させる。

(7) 参画組織・連携組織のイメージ【フロー図⑦⑧】

図表C-14 青梅市スポーツコミッションの参画組織及び連携組織



図表C-15 参考:図表2-9に対応した青梅市スポーツコミッションの構成組織・連携協力組織

団体 タイプ	スポーツ関連団体	観光関連団体	行政等公共組織	経済・福祉等の地域団体	地域内の連携団体	地域外の連携団体
		<ul style="list-style-type: none"> ・体協及び体協加盟団体 ・プロスポーツチーム・クラブ ・トップアスリートチーム・クラブ ・総合型地域スポーツクラブ ・各種民間スポーツクラブ ・スポーツ教室事業者 ・高等学校・大学の部活等 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光協会 ・ホテル・旅館・民宿等宿泊業 ・飲食・土産等の観光関連事業者 ・地域内交通事業者(鉄道・バス・タクシー・レンタサイクル等) ・旅行代理店(域内) ・テーマパーク等観光施設等 	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県 ・市町村 ・警察・消防 ・医療・保健 ・小中学校 	<ul style="list-style-type: none"> ・漁協・農協・森林組合等 ・商工会議所・商工会 ・青年会議所 ・社会福祉協議会等 	<ul style="list-style-type: none"> ・各イベント実施団体 ・民間企業(事業所) ・商店街・商店会 ・高等学校・大学等
③イベント開催型	<ul style="list-style-type: none"> ◎対象スポーツの団体 ○または●関係スポーツ団体 	<ul style="list-style-type: none"> ◎または●観光協会、宿泊業、観光関連事業者及び地域内交通事業者 	<ul style="list-style-type: none"> ◎または●市町村、警察・消防、医療・保健 	<ul style="list-style-type: none"> ◎商工関係、青年会議所等 	<ul style="list-style-type: none"> ◎イベント実施団体 ○または●民間企業(事業所)、商店街・商店会 	<ul style="list-style-type: none"> ○または●スポンサー企業、鉄道、メディア等
④支援型	<ul style="list-style-type: none"> ◎対象スポーツの団体 ○または●関係スポーツ団体 	—	<ul style="list-style-type: none"> ◎市町村 ●小中学校 	<ul style="list-style-type: none"> ●様々な団体 	<ul style="list-style-type: none"> ○または●民間企業、商店街・商店会、高等学校・大学等 	—
⑤スポーツリゾート型	<ul style="list-style-type: none"> ◎対象スポーツの団体 ○または●関係スポーツ団体 	<ul style="list-style-type: none"> ◎または●観光協会、宿泊業、観光関連事業者及び地域内交通事業者 	<ul style="list-style-type: none"> ◎市町村 ○または●警察・消防、医療 	<ul style="list-style-type: none"> ◎商工関係、青年会議所等 	<ul style="list-style-type: none"> ○または●民間企業(事業所)、商店街・商店会 	<ul style="list-style-type: none"> ●旅行代理店関係スポーツメーカー等
⑥キャンプ・合宿型	<ul style="list-style-type: none"> ◎対象スポーツの団体 ○または●関係スポーツ団体 	<ul style="list-style-type: none"> ◎または●観光協会、宿泊業、観光関連事業者及び地域内交通事業者 	<ul style="list-style-type: none"> ◎市町村 ○または●警察・消防、医療 	<ul style="list-style-type: none"> ○または●商工関係、青年会議所、漁協・農協・森林組合等 	<ul style="list-style-type: none"> ○または●イベント実施団体、民間企業(事業所)、商店街・商店会 	<ul style="list-style-type: none"> ●旅行代理店関係スポーツメーカー等

◎直接的にスポーツコミッション内に参加

○できればスポーツコミッション内に参加

●関係組織として連携協力